

改正
補綴

卷之五

和漢年代記

履仲	反正	允恭
安廉	雄略	清寧
顯宗	仁賢	武烈
繼体	安閑	宣化
欽明	敏達	用明
崇峻	雅古	舒明
皇極	孝德	斉明
天智	天武	

漢 晋乃安帝の隆安四年は
唐の中宗の嗣聖三年より





改正和漢年代紀卷之五

元

才履仲

諱去來 穗別乃尊

序

●南涼の秃髮利鹿孤 建和 ●西涼の李暠 庚子の元年 ○七月西秦の乾敗軍して秦は降参と ○西涼は李暠自涼公と称す ○南燕の慕容德帝と称して名と備徳とつとめ年号と建和

先帝は皇子なり母般石野雄といふ十五歳にして太子よこら七十二歳七月朔位よきまの位よすゆすし六年 ○二月都と般余よりす稚櫻の宮とい七月葦田の宿称の女黑雄と皇妃と ○元禄六年まで千二百九十四年よれぶ

二月四日瑞齒別の尊と辛七

儲の君と ○安康天皇

●後涼の呂隆 神鼎 ●北涼の沮渠

五

蒙遜 永安 ●後燕の慕容皝 先始



<p>生いよいよ父の 般余の池と しる。○世尊 の入滅千音 五年よなり</p>	<p>元年○二月後涼の呂超其君呂纂と弒し その兄呂隆とたてしむ。五月北涼の沮渠 蒙遜其君業と弒して自れ。八月晋の 裕羊邳の太守きた。○後燕の段玘其君纂 容盛と弒し盛叔父の北段琰と誅し自つぐ</p>
<p>三 十月十八日帝 壬寅 市残の池は て船あそび</p>	<p>●南涼の秃髮傴檀 晉元年三月南涼の元 利鹿狐死す才の傳檀つぐ。○鳩大羅什夫 竺の經論と翻譯と</p>
<p>四 八月廿日諸 國は史官と 置事と記て 志と通せし</p>	<p>御不興にたつる其官とたつる。○後秦の姚 苻堅後涼と滅りて呂隆と逐呂 光より三代十八年よりしてはる。五月晋の 自皇帝と稱し。○永始と年号し。安帝と尋 陽は廢して平固王とす</p>

<p>五 九月帝 甲辰 嶋は狩し 神の怪異あり</p>	<p>北魏の天賜元年○晋の馮道植と誅し帝位復 元年○晋の馮道植と誅し帝位復</p>
<p>六 正月草香幡 乙巳 後乃皇女と 皇后とん。○姑 て藏職と立</p>	<p>●南燕の慕容超 天上元年○秦義 の姚真羅什と国師ら。僧若と僧正と 四月晋の劉裕と十六別の都督と。九月南燕 の備德死す子の慕容超とす</p>
<p>元 才 又正 十九</p>	<p>丙午 羅什。法花經と翻譯と。○序山の惠遠法師。二 虎溪の橋はとら</p>
<p>諱瑞齒別の尊先帝のよきなり。○五年 五歳よりして四月二日位はきき。○六年○八月六日 大宅臣の祖木事乃命の女津野姫と皇夫人とす。○十月都と</p>	

河内乃丹火より柴垣の宮とす

丁未

●大夏の赫連勃々電并●後燕の高雲正始元年六月秦の赫連勃々自犬夏王と稱す七月高雲後燕の慕容垂とて自号す

三

戊申

南凉の璽元年

四

四

己酉

●北魏の明元帝泰真●北燕の馮跋泰●西秦の更始元年○十月後燕の高雲と弑し馮跋自号して国と北燕と号す慕容垂より五代廿六年より後燕から北魏の紹の君道武帝と弑す道武帝太子嗣紹と誅してみづからつとを明元帝とす

五

五

庚戌

二月晋南燕と号り慕容徳より十六年より滅法顯天皇より佛經と未てく

六

六

正月廿三日帝幸夏

柴垣の宮と崩すゆと

七

元

才允恭

壬子

●西秦の熾般永康○北凉の更始元年○六月西秦の公府その君乾般と弑す般の子熾般公府と弑し一づつ立

八

稚子に宿称の尊仁徳天皇乃皇子なり此八歳より十

二月位よりきまむ位より在り十二年

二

二月稚津毛

癸丑

大夏の八紘元年大夏の勃々姓と赫連と改む○鳩大羅什寂す○道生虎丘山にて說法を石頭とてうご

九

二岐の皇子
女忍坂大
中姫と皇后とす

三

正月醫官

甲寅

北魏の神瑞元年○晋西秦南凉と亡し傳檀と殺す禿髮鳥犛より三代

十

八月新羅 十八年にてはろぶ○僧肇死す
の醫者來りて帝の御惱と治す

四 九月廿八日 初卯 戸方惠遠法師死す
して諸家の先祖と規一種姓と分て貴賤の品とさむ

五 七月十四日 地酉辰 北魏秦常
●後秦の姚泓 永和元年正月後十二
震して宮 秦の姚真死す子乃泓にぐ

六 丁巳 ●西涼の李歆 寶元元年二月西涼の李暹死す
●子此李歆にぐ八月晋の刘裕 後秦代
伐て姚泓と斬る姚萇より三代北四年
して後秦はろぶ

七 雄略にまゝ 戊午 大夏 曷泥 元年六月晋の刘裕 宋王に封せら十四
●此夜帝 九錫と備す十月刘裕帝と弑一帝此才
大和の藤原 德文と位に即る○寛賢花嚴經と番譯と
の宮夜通姫乃許し幸し皇太后にむ

八 二月皇后乃己未 十一 恭帝 諱德文 位よわると二年○大夏
●夜通姫と遠く河内乃第 漳に官よとさむ

九 二月第漳の原申 宋一 武帝 姓刘名裕 字德真 彭城
●八月十月 都と建康に作る位よわると三年●西涼
同く幸し 乃李恂 承建 ○西秦の建弘 元年○六月刘
裕より皇帝とかり恭帝と廢して
零陵王とん東晋元帝より十一代百三年

永初

年代記

十	正月第淳の宮よ幸	辛酉	二月北涼西涼と亡し李相と殺し李嵩と	二
十一	三月衣通姫	壬戌	五月帝崩す太子爰符即位す	三
十二	乃め藤原の部とてい	癸亥	二月爰符武帝の子なり○正月北魏より宋と攻る○十月北魏の明元帝崩す太子壽位す	景平
十三	甲子	文帝	諱ハ爰隆武帝才三子なり位す	元嘉
十四	九月十日帝	乙未	光元年○五月宋の檀道濟少帝と廢す六月爰隆とて即位す	二

然路獵す神の崇よめて歎と得ず海人として赤石の海底と探りて鎮珠と云ら大と桃のどし鳥の神と祠りて歎と云ら

十五	丙寅	謝靈運と秘魯並す	○惠琳と黒衣宰相す	三
十六	丁卯	晋の陶淵明死す		四
十七	戊辰	西秦の暮末	○大夏は定勝先○北魏神鹿	五
十八	己巳	十月朔日	○西秦の熾盤死す	六
十九	庚午	九月北燕の馮跋死す	○北燕馮翼と殺し自立す	七
廿	辛未	北燕の馮弘	○北燕和元年○晋大夏西秦と亡し暮末と殺す	八

年よてはらふ○六月北魏大夏と攻て定と云ら

廿一 辛申 北魏延和元年 勃多より三代廿五年よりほろぶ

廿二 癸酉 北魏の牧健 永和元四月北魏の蒙孫死す 子の牧健つぐ 謝美運罪あつて誅せらる

廿三 甲戌 三月七日木 子の求那跋陀羅の求那跋陀羅の國より出て出家す

廿四 乙亥 北魏天延元 六月宋の佛と鑄造と造ると禁す

廿五 丙子 北魏北燕との馮弘高麗より北燕 二代廿八年よりほろぶ 暴雲無識死す

廿六 丁丑 五月北魏民を勅し守令の罪を告ぐ

廿七 戊寅 十月宋の道季史季文季儒季とあはる

廿八 己卯 九月北魏より北涼を伐牧健降参す北

廿九 庚辰 北魏太平真君元年 涼三代四十三年よりほろぶ

三十 辛巳 正月北魏の新兵王浚謀反して誅せらる

三十一 壬午 北魏の李順罪ありて誅せらる

三十二 癸未 求那跋陀羅の翻譯を

三十三 甲申 北魏私に沙門をなすを禁す

三十四 乙酉 十月宋の范曄謀反して誅せらる 彭城 王の養康を廢して廢人となす

三十五 丙戌 北魏の太武帝崔浩を勸めて沙門を誅し佛像經卷をやめ

三十六 丁亥

三十七 戊子

三十八 己丑

三十九 庚寅

四十 辛卯

仁賢生 仁賢生 仁賢生

元 繼体生母 庚寅 六月北魏崔浩と殺す。宋大は魏と伐 廿七

甲 辛卯 北魏聖平元年。正月宋文帝康ところむ 廿八

四 壬辰 北魏才安王。才安帝 興安元年二月魏 元

の宗也。才武帝と殺す。安王の十月宗 也。才安と殺す。濟宗也と誅して位 正しく是と文成帝と勅して仏法と真を

三 正月才帝 癸巳 二月宋の太子劭。帝と殺す。五月武陵王の北 柴璠の宮よ 駿劭と誅して位正しく

元 崩。才帝は才壽八十歳十月河内の長野原比陵よんう びりてまつる群臣本梨軽の尊と才。才總の尊と位即

一 廿 安康 甲午 才 孝武帝 諱ハ駿字ハ休隆文帝の子 才

諱ハ才總の 興光元。才。廿七祖般若多寂す

二 正月才中帝 乙未 北魏天安元年。八月宋帝也とと武昌 二 才と皇太后に 王の渾と殺す

三 八月九日才 丙申 十二月宋の顔延之死す 三 官よ幸わり肩輪の王帝と害したてまつる帝の才大泊

瀬の尊。肩輪の王と才皇の皇子と殺して十月十三日位よん

元 廿 雄略 丁酉 諱ハ大泊瀬の幼才尊。才泰才五の皇子なり

七十一歳して位よ即ち位よ在し。廿三年。三月草香幡

年代記 卷之五

作... 媛姫と皇后... 平郡の真鳥と春... 大伴... 室屋... 天連...

二 十月三日若野の宮に幸て戊戌 六月宋北... 景... 二

三 六月御馬瀬に獵膳走を割鮮し帝の心を契むと後て 木津の馬飼と斬りて同月先帝と菅原の伏見の陵に葬る

四 二月帝葛城山に獵し庚子北魏... 元... 廣... 三... 角... 年... 四

五 二月帝葛城山に獵し辛酉夏宋... 明堂... 三... 五

六 帝后妃よ蚕の事と勸責正月宋始て五帝と明堂... 祀... 六

七 田狹... 養... 推... 雅... 雅... 雅... 七

八 新羅... 甲辰五月帝崩す太子業位... 八

九 三月帝... 新羅... 乙巳才廢帝... 諱... 業... 孝... 武帝... 太子... 也... 景... 和... 九

十 安... 養... 人... 輕... 村... 養... 宋... 十

十一 十月鳥... 養... 宋... 十

十二 十月鳥... 養... 宋... 十

十三 十月鳥... 養... 宋... 十

十四 十月鳥... 養... 宋... 十

十五 十月鳥... 養... 宋... 十

十六 十月鳥... 養... 宋... 十

十七 十月鳥... 養... 宋... 十

十八 十月鳥... 養... 宋... 十

十九 十月鳥... 養... 宋... 十

二十 十月鳥... 養... 宋... 十

二十一 十月鳥... 養... 宋... 十

二十二 十月鳥... 養... 宋... 十

二十三 十月鳥... 養... 宋... 十

二十四 十月鳥... 養... 宋... 十

二十五 十月鳥... 養... 宋... 十

二十六 十月鳥... 養... 宋... 十

二十七 十月鳥... 養... 宋... 十

二十八 十月鳥... 養... 宋... 十

二十九 十月鳥... 養... 宋... 十

三十 十月鳥... 養... 宋... 十

年... 代... 巳... 養... 宋... 十

鳥養部とん

十二月始て樓閣と起る

戊申勅して僧瓊と天下の僧正に

四

十三木王猪名部其真根云の巳酉

五

石小才呂河一カマ小商旅とやゆ唐の文

十四吳織衣縫の兄才云夏成

正月宋南郊明堂と定めて六

五月大旱す帝吉備の辛亥

北魏才孝文帝延興元年八月魏七

石持の連と命て三輪

の献文帝位と太子宏とゆづり

の社と雨とせしむ

自太上皇帝と稱す

十六勅して桑よよき郡縣

季四月帝崩と太子昱位とるく○秦

よ桑と植しむ

魏小祀と牲と用るとと

十七

癸丑

才 蒼梧王

諱 皇太子 德 昭 昭 帝 の

二

八月伊勢の朝旦

甲寅

那叛く月物部自の連勅とけれと獲来つて斬

十九

乙卯

高麗の兵新羅と

丙辰

攻る日本より新羅

北魏 孝文帝 元 六月魏の太后 献文帝

四

加勢して高麗と攻る

丁巳

高麗軍ととめ

才 須帝

諱 八 準 字 仲 護 明 帝 子 昇

明

て百濟と成す

才 八 須帝

梧王と弑し準と遷て位とけく北魏

の 太和 元年

二

廿二

青朔白髪乃皇

戊午

廿三

青朔白髪乃皇

戊午

二

子と天子と云。七月七日豊受皇大神と丹波の余佐の郡より伊勢度遇乃郡山田の原に遷す是と凡官といふ。丹波余佐の郡水江の浦嶋子達菜山よりして移らす

三 四月百濟の文弁死す 巳未

帝勅して末多王と立

し。八月七日帝崩

す。海守壽九十三歳

高帝 姓ハ素各道成字建 伯紹漢の素何 元

世四代の孫なり宋の禪と受て 建康に都一國と稱す位は 在し四年。五月宋の順帝と 弒す武帝より代六年と云ふ

元 世 三 清寧 諱ハ白髮武 廣國押稚日本根子乃尊光帝才乃皇子也

母葛城韓姫といふ葛城乃母の大臣比女なり廿二歳よ て太子より廿四歳より正月十五即位す即位す

二

五年。都と獲栗よ。いと獲栗の宮といふ母の韓姫と尊て 皇太夫人といふ。十月九日先帝と丹比の高就鳥原に陵よ。う ありたてまつる。星川の皇子謀反して誅せらる

二 十月より。新掌と行ふ 辛酉 二月魏の沙門法秀乱すを誅せらる 三

三 四月多食乃王と太子と未成 三月帝崩と壽五十四 四

一弘計の王と皇子と云。海表乃諸蕃をびよ調とさく。 ○十月勅して大馬器玩と献るしと云ふ

四 帝勅して方枝乃法 癸亥 才 武帝 諱ハ贖字ハ宣遠高 承

令と錢りある罪過を名 帝は也位は在し十年 明

五 正月十六日帝獲栗宮 甲子 二

是崩す。ます壽廿八歳十一月河内乃坂門原の陵に葬り 之を山乃の多食乃尊と雄食の尊と兄弟相ゆづりて位は即

あはれ御幼。飯豊青北皇女政とのひあまし一年より七崩す
また十二月葛城の壇見の丘の陵に葬り清負天皇と謚と

元 廿 頭宗 諱弘計乙丑 孫の富陽の民唐富之帝と稱す 三

乃尊すこと大敏の尊とす帝道押磐の皇女此
子なり母夷姫とす○正月朔近島八釣の宮とす位より即
ち夜に在し三年○稚子の玉の女難波の小野姫と皇后
とす○二月近江の敷屋野に幸あり父玉の骨とよとあま
○三月三日曲水の宴とす

二 三月曲水乃宴あり○西貢孫唐富之とすのてたりと 四
此時稻一斛の價銀錢一疋

三 三月詠乃社山城の葛丁卯 七月魏大ひでりす 五
野の郡に鎮坐○四月廿五日帝ハ釣乃宮とす崩す
また壽四十八歳

元 廿 仁賢 諱八多食尊 戊辰 十月孫始て大極殿とす時令と詠 六
高乃宮とす位よりさあ位に在し壬午○二月二日春日大娘皇女
と皇后とす○十月三日前帝と傷岳に船杯の丘に陵とす

二 九月小野此皇后自死す 己巳 室誌と獄とあり 七

三 群臣勅し七政法と議す 庚午 辛未 正月魏律令と定め帝とす 九

四 正月敷嶋乃穗兄と稱す 辛未 正月魏律令と定め帝とす 九
ありて猶下され死す 政とさく

五 正月佐伯氏乃人と尋て 壬申 孫の沈約宋書とす 十

六 正月 癸酉 孫の崩す孫の昭業位とす 十一

七 正月三日稚鷦鷯乃尊 甲戌 孫 三 樹村王 諱昭業 四 海陵王 諱昭 文 延興

八	五穀豊稔	乙亥六月魏元胡の語と使と禁し武	二
九		丙子正月魏姓と改め族姓とさし	三
十		丁丑十月魏より秦と伐てやぶ	四
十一	八月帝崩す	戊寅七月明帝崩す太子室卷位す	五
元	廿六武烈	己卯六月東昏侯	六
二	九月孕婦也腹割	庚辰北魏才宣武帝	七

民みか天より火とぬりたりひ石室と作り其の中を隠す

三 十月人の相甲とん 辛巳 才七和帝 諱少室 魏東昏侯の弟なり 三月東昏侯と廢し位す 身

四 人の髪と殺て木と 壬午 梁一武帝 姓ハ蕭諱ハ衍字統達 天監

五 六月人と隱伏て外 癸未 魏兵と殺し七梁とつ

六 流一弟と持て斬殺す

甲申 北魏正始 元元 英中 山王 九城 氏 三

七 青人木ノ身射 乙酉 正月梁の五経の傳を置六月孔子の

乃歸てとらふ

廟とて七月魏の大極殿を芝生す

八 十月八日帝州城 丙戌 梁の昭明太子五歳とて五経を誦

乃歸て廟を築きし

元 廿七 魏の降参す 六

七 魏の降参す

魏の降参す 六

魏の子を母振姫とて五十七歳とて二月即位し即ち夜

在し廿五年大律の金村に大連許贊の男人の大臣鹿鹿の火

の大連政とて三月五日手白香此皇女と皇太后の神祇の

伯とて神祇を祭す○元禄六年まで千八百十七年とて

二 南海に中耽羅人 戊子 北魏の元愉謀反し九月七

初て百濟に通ず

殺す○菩提流支の經論を翻譯す

○十月三日先帝と

○法雲とて先宅寺の主とす

儼岳の魏の陵

三 魏の百濟より入 己丑 魏の帝が後身を講し永

○欽明ひまらふ

明僧居寺とて

四 庚寅 正月梁の沈約と光祿大夫と

五 十月都山城筒城 辛卯 正月魏とて新舞とて

遷て筒城の宮とす

六 六月魏積の臣 壬辰 北魏の元愉謀反し九月七

山と百濟より入

晉建晉成の二人の子とて

七 六月百濟より五経 癸巳 魏の崔光太子の傳とて

乃博士段楊尔來る○十月八日大兄の尊太子とて

八 甲午 乙未 正月魏の帝崩す太子誦はく大廟

九 乙未 正月魏の帝崩す太子誦はく大廟

九層の浮屠と作る鈴屋十里の園

五竹紀 卷之五 三

十 丙申 北魏九孝明帝 熙平元年永寧寺と五

作る。沙門宝唱。經律異相と云らふ

十一 丁酉 三月梁の武帝 殺生戒と持ら文錦と云

人獸の形と畫しと云ら四月宗廟の牲と止て麵類と云ら

十二 戊戌 北魏神龜元 四月魏の胡国珍と云

武帝宝唱の勅して衆經目錄と撰す

十三 己亥 魏の王澄死す。惠皎高僧傳と著す

十四 庚子 北魏正光元 正月高麗貢と梁より普

く。達于尊者武帝よりカ命

十五 辛丑 九月武帝。同泰寺と建立

十六 壬寅 魏の惠性天生りり云

十七 癸卯 魏の沃野鎮の民。破六韓拔陵謀

反し年号と云て 眞主と云

十八 甲辰 魏の秦州の莫折大提。謀反す

十九 乙巳 北魏正光元。八月魏の柔玄鎮民

杜洛周謀反す

二十 丙午 魏の鮮于脩礼。謀反す

長孫雅と云

二十一 丁未 正月魏の葛榮。自天子と稱し

二月武帝。身と同泰寺と捨

通

二十二 戊申 七月魏の陳郡民。刘獲謀反す

九月秦州の民。念生と殺して降

冬。魏の葉宝寅。謀反す

二十三 己酉 正月杜洛周。葛榮と殺す

魏の太

二十四 庚戌 正月杜洛周。葛榮と殺す

魏の太

二十五 辛亥 正月杜洛周。葛榮と殺す

廿六 六月近江の毛野の臣と遣し新羅と伐新羅。築紫の造船并しと云ら官軍と防ぐ

廿七 九月都下。藤原主穂と云と穂代官と云

廿八 正月百濟の勅して聖明王と云ら

廿九 五月百濟の武寧王死す

三十 梁の司馬達來と云

三十一 三月九日都下山城乃新国郡より云す

三十二 十月十日物部の大連。築紫の造

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

殷昇と戦ふ鹿鹿
火の殷昇と殺す

四月尔朱榮の子攸とらる是也北魏
才在帝とらる元大后と幼主劉

と河水の沈め王公以下殺す二千八
刑果謀反して能漢王と稱す魏の方侯
魏帝と稱す

三

九月巨野の大臣死す己酉
平らる魏王顥洛陽入て皇帝と稱す
六月敗軍して
死す九月武帝身と同泰寺とらる

中大通

高

十月毛野の臣死す庚戌
天光が侯魏とらる兼室寅と誅す
九月尔朱世隆尔朱兆
相とらる孝在帝と殺す長廣王と位はらる

二

其

二月七日帝位と天辛亥
二月魏の尔朱也隆長廣王と廢す
恭と位はらる北魏二節閔帝恭
普泰元四月梁の昭明太子死す

三

壽八十歳十一月
晋藍野の陵は葬る

十月魏の高歡韋武王融の子
迎て位はらる北魏三安定王
甲與元

四

其

空位なり
高歡節閔帝と安定王と廢す
平陽秀の子脩と位はらる北魏
叶孝武帝永熙元高歡
自丞相とらる長廣王節閔帝
安定王天光度律と殺す

元

廿八
安閑
諱分大
兄廣固

東魏の孫清河王の
子と位はらる即閔と

六

押武會
先

東魏の孝武帝と殺す北魏の十
毒と進て孝武帝と殺す北魏の十
代百甲九年して東西とわらる

帝才の皇子也

香の連れ女あり甲八歳
太子と立六十九歳と位はらる
位はらる二年○晋都天
和の勾金の橋とらる金橋の

五

宣仁の三月春見山田皇女と皇后に國十月三嶋に幸あり

二 經津美神上野 乙卯 ●西魏文帝大統元正月宇文泰大

車樂の郡跡と 孝文帝の孫京兆太子之位即 同

垂の枝鉾の明 國西魏とサビク 孝文帝の孫京兆太子之位即 同

神崇ひ○五月狹手彦と遣し新羅と討任那と鎮百

流と救ふ○十月十七日帝崩すまた壽年歲河内旧

布郡高屋乃女之陵と云ふ

元 廿 宣化 丙辰 三月陶弘景死○九月東魏梁伐 二

九 廣國押 梁の沈慶之と討破る東魏梁

有の尊先帝此 和驛○十月西魏大は飢饉と

廿九歳と位即の位在 辛酉 ○正月都と檜の

前と述と盧野乃宮と三月朔蘇我の稱日省稱と大

臣と所陪の大丸と大夫と三月八月橘仲の皇女と自皇后

と云○七月鹿鹿乃火比大連死す

二 十月新羅任那冠 丁巳 正月高歡西魏侵と○梁長子連登修 三

と云と狹手彦と遣して任那と助む

三 八月大和の余峯山 戊午 東魏元○八月東魏西魏と圍む 四

藏王權現とあむ 宇文泰東魏の村と斬○十二月東魏

兵と畏て僧と都二百万人寺と造ると三万余宇

四 二月十日帝崩す 己未 東魏真和元○梁諸州と分て吾皇に 五

また壽七十三歳 ○正法念經と翻譯と

十月十七日大和身狹桃花鳥塚の上の陵と花并る○十月吾

廣庭の尊位と即と物部の尾具比連と大連と云

元 三 欽明 諱ハ天 廣 雲啓 天竺と往て法と求む 六

香皇女と仁賢天皇皇女と廿一歳と位即の位在

七	疫癘と人死す	丙寅	同泰寺天火と燒るる	建寧	七
六	百濟の公と任那の	乙丑	晉東魏晉陽宮と作る	六月李士	十
五	土月佐渡と鬼懸る	甲子	西魏權衡渡邊と更と	十	十
四	九月百濟より新羅	癸亥	東魏武定元三月宇文泰	高歡と	九
三	乃冠より任那の		戰天と敗てくる	冬東魏長城	
二	建が況しと奏と		作る	梁の顧野玉玉篇と作る	
二	二月稚綾姫日影	壬酉	千鳥仙像と梁より	くる	七
三	姪堅塩姫小姉姫		糠子姫とらして死す		
三		壬戌	梁乃安成の妖人謀反と	三月王僧弁討	八
二			取る	十月高歡西魏と圍んで	
一	廿五年○正月十		青石姫と皇后と	七月十四日都と大	
	破城嶋より遷す		金刺乃宮子	元祿六年	
				千百辛年	

八	大藏經二千卷	丁卯	正月東魏の高歡死	侯景梁と	大
九		戊辰	侯景謀反して臨賀王	正徳と帝と	二
十		己巳	三月侯景其臺城と陷	臨賀王と	三
十一	百濟より五經の傳	庚午	才簡文帝	諱綱武帝女子	在
十二	大和の宮		孝靜帝と弒し	自帝と	なり
十三	大寺と建立と		北魏と	北齊才文宣帝	天保元
十四	麥種と千斛首涿	辛未	三月西魏の文帝崩	す	八月侯景
十五	同賜りて聖明王		梁乃帝と廢し	豫章王と	位即十

年代記

卷之五

七

高麗とて
月豫章王と廢し自漢帝と稱す

三 十月百濟より金徳親
迎ひ具仁経と故く蘇
我の稱月大秋の向原
寺と建て仏と安置す
甫 孝元帝
諱纒武帝女子承
三 十月侯景と聖

十四 正月疫癘とやうに難
波の堀江に棄る五月河内
とて仏と二体作る吉野
寺の致先像とてかかれり

十五 正月七月中倉太珠
敷の身と太子とて二
月百濟の僧曇惠道
深來る推古にまほふ
甲戌 正月宇文泰帝と廢し文帝
女子廓と位に即る西魏三
帝十月西魏梁とて帝
と殺す梁の陳霸先方智と

十六 二月大己貴の神遠江
周智郡の現の事任
の神社崇む○同月
百濟より王子惠と遣し
去年聖明王新羅よ
殺し由と奏し○七月
白楯丸倉と置し

十七 吉備に見嶋大和比高帝
等と屯倉以とく
陳一武帝
姓陳諱霸先字
真自是眞の人なり

十八 百濟の王子余昌とて
威徳王とす
陳一武帝
眞自是眞の人なり

十九 九月陳霸先丞相とす
魏の宇文泰死とて宇文
泰

二十 十月陳霸先負陽侯と廢
王僧弁と殺す

二十一 十月西魏

二十二 十月西魏

二十三 十月西魏

二十四 十月西魏

二十五 十月西魏

二十六 十月西魏

二十七 十月西魏

十月敬帝と廢して位を昭國と陳の以在位三年○梁代
 五年六月乙卯○正月宇文覺恭帝と廢し自位つぎ
 國と周の○後周才恭愍帝○四月周才宇文護恭帝と殺
 して西魏三代廿二年乙卯九月宇文護孝愍帝と殺し
 寧都公毓とひて位を承つて○後周二明帝此元

九

戊寅五月武帝身天在嚴寺は捨る二

廿

己卯後周武成元○武帝崩す嗣は

兄の子衛位を承つて○十月北齊才文宣帝崩す殷はく

廿

九月新羅より貢とさく庚辰才文帝
 諱ハ楷在位七年○天

○四月宇文護明帝と殺し其才邕と位を即る○八月北齊乃
 常山演帝と廢して位を承つて○北齊才孝昭帝 乾建元

廿

新羅貢とさく禮と奉己 ●後周才武帝 保定元○十月北

賜と仰る 穢便恨て言
 是より新羅日本より交く

禰乃為昭帝崩す長廣王湛位を
 承く ●北齊才武成帝 天統元

廿

狭手彦高麗と伐室と 奉
 北齊 河清元○二月後梁の宣帝崩す

得てくろの十月新羅より
 貢と献日本より和とさく

●太子位を即る ●後梁才明帝 天保元
 ○北齊才高祖彦 乱と作て誅せらる

廿

桑末 眞諦 俱舍撰大乗がど乃論と
 翻譯と○六月齊才孝攄と殺す

廿

幡た伊和の神と崇む 甲申
 後周才 明帝と位を承つて

○神功皇后の妹從姫の神と肥前にて乃宮河六の神と承む

廿

五月高麗の頭霧和 乙酉
 北齊才武成帝位と太子を承り

耶とさくして貢とさく 自太上皇帝と稱す ●北齊才 天統元

廿

丙戌 後周 天和元○四月文帝崩す太

子伯宗位を承り ○故太子承と位を承りて經と定す

天 康

年代記

卷之五

九

其諸國洪水。飢饉して丁亥
才臨海王 諱伯宗文帝也
先

三 才臨海王

在位二年。二月陳乃大

人。人々食わ。曾五穀新
禱乃。之。あ。不。賀。茂。の。社
と。祭。る。其。矣。祭。是。より。始。る

安成王瑱。之。政。と。專。す。其。師。知。と。到。仲。舉。と。公。と。り。た

元 戊子 嵩頭陀。寂す。○隋。公。揚。忠。死。二

と。○十月。安成王瑱。伯宗。と。廢。して。臨海王。と。す。○隋。公。揚。忠。死。二

北 己丑 才宣帝 諱八瑱。在位十四年。○大

四 才宣帝

周。陳。好。と。通。す。○建

傳。大。士。寂。す。と。り。め。輪。藏。と。造

北 二月。蘇我。の。稱。目。沐浴。庚寅 北。祚。武。系。元 二

端坐して死む。○八幡。と。り。め。豊。前。の。宇。佐。と。り。め。二

世 四月。帝。崩。す。○大。壽。辛卯 三

六。三。歳。九。月。檜。隈。坂。の。陵。に。と。り。め。二

元 北 一 敏達 諱八濲。中倉。壬辰 後周。建。德。元。年。三。月。宇。文。護。と。殺。四

大。珠。敷。の。母。先。帝。才。元。の。皇。子。が。り。母。八。石。姫。と。す

官。花。帝。は。皇。女。也。四。月。三。月。傳。即。ち。位。に。在。し。十。四。年。物。部。乃

引。削。の。守。屋。と。大。連。と。蘇。我。の。馬。子。と。大。臣。と。高。麗。と

り。鳥。乃。羽。衣。と。着。て。上。る。毛。辰。不。羽。衣。と。飲。の。上。る。菜。鳥。と。す

二 正月朔。聖德太子。生。癸巳 四月。陳。の。兵。明。徹。祚。と。死。五

三 聖德太子。而。死。仁。稱。甲午 二月。祚。乃。高。思。好。乱。と。作。して。六

多。和。と。舍。利。あり 誅。せ。ら。る

四 正月九日。廣。姫。皇。后。と。な。乙未 智者。大。師。天。台。山。に。入。ま。七

り。十。月。薨。す。の。都。と。譯。語。田。よ。り。の。幸。玉。乃。宮。と。す

五 三月。豐。御。食。炊。屋。姫。丙申 北。祚。隆。化。元。○十。二。月。後。周。の。武。八

と。皇。后。と。す 帝。親。北。祚。と。破。る。温。公。對。よ

奔。る。祚。人。延。宗。と。帝。と。り。○智。周。が。十。人。天。竺。律。法。と。求

六	十月百濟より倭經諸論禪律なりびよ仙師。新造る寺とてさく	酉	正月北魏の温公位と太子とふ九高阿那肱謀反して温公太子ととらふ周の降参す北魏六代廿年とて之の苻苻の慧思叙す
七	くどめて天下を勅して毎月六齋日を生と放	戌	六月後周の武帝崩す太子位とす
八	新羅より親近の像と已亥	亥	正月後周の宣帝位と太子とす
九	六月新羅より貢とて	子	五月後周の楊堅位とす
十	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
十一	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
十二	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
十三	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
十四	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
十五	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
十六	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
十七	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
十八	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
十九	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
二十	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす

十一	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
十二	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
十三	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
十四	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
十五	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
十六	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
十七	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
十八	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
十九	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
二十	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
二十一	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
二十二	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
二十三	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
二十四	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
二十五	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
二十六	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
二十七	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
二十八	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
二十九	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
三十	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
三十一	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
三十二	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
三十三	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
三十四	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
三十五	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
三十六	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
三十七	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
三十八	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
三十九	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
四十	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
四十一	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
四十二	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
四十三	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
四十四	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
四十五	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
四十六	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
四十七	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
四十八	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
四十九	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
五十	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
五十一	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
五十二	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
五十三	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
五十四	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
五十五	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
五十六	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
五十七	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
五十八	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
五十九	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
六十	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
六十一	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
六十二	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
六十三	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
六十四	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
六十五	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
六十六	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
六十七	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
六十八	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
六十九	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
七十	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
七十一	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
七十二	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
七十三	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
七十四	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
七十五	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
七十六	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
七十七	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
七十八	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
七十九	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
八十	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
八十一	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
八十二	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
八十三	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
八十四	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
八十五	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
八十六	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
八十七	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
八十八	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす
八十九	二月蝦夷冠とて其將	申	二月楊堅位とす
九十	二月蝦夷冠とて其將	酉	二月楊堅位とす
九十一	二月蝦夷冠とて其將	戌	二月楊堅位とす
九十二	二月蝦夷冠とて其將	亥	二月楊堅位とす
九十三	二月蝦夷冠とて其將	子	二月楊堅位とす
九十四	二月蝦夷冠とて其將	丑	二月楊堅位とす
九十五	二月蝦夷冠とて其將	寅	二月楊堅位とす
九十六	二月蝦夷冠とて其將	卯	二月楊堅位とす
九十七	二月蝦夷冠とて其將	辰	二月楊堅位とす
九十八	二月蝦夷冠とて其將	巳	二月楊堅位とす
九十九	二月蝦夷冠とて其將	午	二月楊堅位とす
一百	二月蝦夷冠とて其將	未	二月楊堅位とす

年代記

元

四

元 北 二 用 明 譚 八 橋 豊 日 丙 午 後 梁 三 才 官 公 廣 運 元

西 三月守屋仏と難波の乙巳五月後梁の明帝崩す

三 九月百濟より石仙の弥 勸とてくく帝。蘇我の野子よたまる

三 使とてくく帝。蘇我の野子よたまる

十 二月蝦夷冠とて其將 卒也

周 靜 帝 崩 後 周 五 代 廿 五 年 丁 未 十 月 隋 文 帝 崩 卒 也

二月九日帝崩す。未九月隋後梁とす。後梁の代禩

壽四十八歳七月祭余の池の陵に葬る。遣勅燒て滅度す。

よりて坂田寺と建る。七月聖徳太子守屋と諱す。八月二日泊瀬部に即位す。即ち冬聖徳太子天王寺と造りま

元 北 崇峻 諱泊瀬部 戊申 十月隋の晋王廣陳とす。二

の稱目は女なり。位は在り。五年三月大伴の糠手乃連のむすめ小手子姫と皇妃とす。冬蘇我の馬子元真寺と建

二 七月諸國の境とす。己酉 隋文帝 正月隋軍陳とす。陳の五代北二年よりす。九

三月歡信尼百濟より庚戌 李徳林と湖外の新史とす。柳莊と饒別の新史とす。十

四 四月十三日敏達帝と戦。李贍と高麗の新史とす。秋十一 長陵に葬る。滕王瓊と殺す。

五 十月蘇我の馬子東。漢の直駒とて帝と弑す。同日倉村の國の陵に葬る。東漢の直駒馬子と殺す。十月八日皇后位ははきま

元 北 推古 諱ハ豊御食。癸丑 智者大師。法花を説とす。三

此后となり。四十歳して位は即ち。位は在り。北六年四月十日。姪の聖徳太子と皇太子として政を攝す。九月用明帝

と河内の科長の陵に葬る。十月天壽寺と攝外難波の荒陵に造る。稻倉魂の神。出羽に出現す。称黒の権現と崇

二 大和の廣隆寺と造る。甲寅 智者大師。止觀とす。十四

三 五月高麗の惠慈。百乙卯 真觀師。南天竺寺と作る。三五

濟の惠聽きつる太子此師也

月仁壽宮成就す

四 十月元真寺供養

丙辰

十六

百濟王の子阿佐きつり
聖徳太子と拜と

智者大師寂す○費長扇七
歴代三空紀と撰む

十七

六 四月難波の般若新羅より成平
久ら鶴二隻とさくぐ○八月新羅より孔雀とさくぐ

十八

七 四月廿七日地震して宮室破已未

十九

諸國の神と祭る○九月百濟より駱駝馬羊白雉と貢

八 二月新羅の伐て任那と救ふ
十月天子舅と廢晋廣と太子

廿

九 二月斑鳩の宮つ○三月太
子市と始めふ

五月突厥降參す○
十月天と南郊と祭る

廿一

十 百濟の僧觀歎きつりて
曆天文地理むの各と

壬戌 四月八日新羅の
降五月羅列乃京と銀屑

廿二

してまひる

天竺あり九月まて始る

十一 秦の川勝廣隆寺と建る
○十月四日帝小聖田比宮と遷る

癸亥 瀾那岷多寂す

廿三

十二 四月三日太子十七と祭乃憲
法と作りまふ

甲子 七月太子廣帝と太室殿と
弒一佐と即○洛陽と東京と

廿四

十三 勅して釈迦の像と作る○高
懸より黄金とさくぐ

乙丑 才 煬帝 譚公廣文帝才
二子也在位十三年業

十四 四月八日太六の仏と元真寺
安置と○五月金剛寺と建

丙寅 三祖僧璨寂す此人信心
乃銘と著と○楊素死す

廿五

○太子内裡して勝鬘經法花經と講とまふ

丁卯 四月列と改て郡とす○裴矩

廿六

十五 二月十五日勅して天神地祇
と祭る○聖徳太子難波の

西城圖記三卷と撰む

廿七

百濟寺大和の法貴寺法隆寺と建立と
○七月小野

廿八

の妹子と隋の国よはくす

六 四月妹子隋よりくる隋の戊辰三月小野の妹子来り表と負四

裴世清副て来る○九月太子夢殿より前身を持あふ
法花経と取来りあふ○同十日裴世清より妹子と副て遣す

十七 九月妹子隋よりくる○百濟己巳正月民の兵具と禁し○五
の船漂きて肥後よりく

十八 三月高麗の僧曇徴来り庚午琉球と攻敗りて王と殺し
彩色の紙墨と作る○七月新羅高麗任那の使汝洛よ来る

十九 諸臣の服の色冠の色と隋より来り
○五月五日免田野より茶獵す○百濟の琳聖太子きこころ

廿 百濟の樂師童一素と朴一甫高麗よりくす
ゆの須弥山と吳橋の形と内裡の庭と作る○如て橋と作る

廿一 太子斥周より遠くよりあふ 癸酉三月孟海公乱と作す 九

廿二 鎌足生る○六月大上御田鍬
と隋より遣す○八月馬子病ふ祈乃るあ国民男女千人出家す

廿三 九月御田鍬隋よりくる 乙亥
十一月林玄謀及して禁録十二

廿四 正月桃李と実なる七月新羅より金乃の像とくる
十一月李湜親文帝の孫
額安寺と建あふ○六月出雲
孝帝煬帝と大上皇と

廿五 太子大和の大安寺奈良の丁也
李湜自丞相しなる夏の竇建德丁也魏の李密
定揚の刘武周天眞梁の梁師都秘隆秦比薛举秦真

梁の兼銑鳴鳳元年○此年楚と合せて八国よくる

廿六 八月高麗より隋の倭と入戊寅
大才高祖
姓ハ李諱ハ煬
字ハ叔德五月德

使て船と造し

佐よ即都と長安達國と大

唐と号在位九年○六月隋の恭帝と廢と○三月隋の宇文化及煬帝と弑と○恭帝の弟○何とて帝と稱す○隋

芒

巳卯

鄭の垂克開明○梁の沈法真二

如くわる物ありまき撫が

延興○吳に李字通明政元○二月

の客真貴涼の李軌と殺と五月垂克隋の越王と弑

楚の朱粲降参す○四月唐

共

三月太子大臣と誅して庚辰

正月李世勣唐と敗と○二月官三

先代の旧事本紀と撰す

乃名と改む○四月唐の世民定揚

と敗る劉武周死と○十月燕の高閑道降参と○十二月唐の峽川の兵梁と敗る沈法真をづりて死す

廿

二月晋聖徳太子と死

辛巳二月世民鄭の軍と敗る三月夏の四

長長陵よとらるる新

竇建徳鄭と敗る五月世民夏と

羅らら姑と表と上る

鄭の軍と敗る竇建徳と擒よ

室の錢と行む○十月梁の裴鋹降参と○十月吳の李字通

卅

二月晋傅太子と死す

壬午正月劉黑闥王と封す漢東の五

劉黑闥天造元○三月世民

劉黑闥と敗る○楚の林士弘死す

卅一

七月新羅とらるる像金奈未

正月漢東降参す○八月唐の六

乃塔とさくぐ

僕射輔公祐とむく

卅二

二月晋帝と死す

甲申二月唐の趙郡王壽恭丹陽と破七

僧あり勅して百濟の

りて輔公祐とこらむ

觀勅と僧平と鞍部の徳積と僧都と阿曇の連を法頭と

して天下の僧尼と扱むし僧官の姑なり

世三 高麗の惠灌來りて三論宗を西
九月太府に詔して諸列乃八
弘め井上寺とらんす
推量と檢校す

世四 五月廿日馬子死す○有九月
六月帝太子皇孫稱す八月九
聖少り五穀益く枯て民飢
太子位より即魏徵主謀諫
死を強盜にらる○天智天
議大夫となり張蘊古大室
皇ひましあふ
乃箴とよとす

世五 五月蠲集るし十文りく
二 太宗 諱世民高祖の子
カハ在位廿二年 觀
とす實也

世六 三月七日帝崩す
二月天下分つて修造とれ○三月
五月七日帝崩す
二月房玄齡杜如晦左右の三
十五歳○四月十日雹あり大
六月蝗あり帝蝗と吞で
桃のどし春夏旱す○九月
歳と祝と果して蝗田と
甚日帝行田王の陵に葬る
害むと自鶴寢殿に真す

元 世五 舒明 諱ハ氣長足
二月房玄齡杜如晦左右の三
帝の孫あり母ハ糠手姫といふ正月四日位より即の位在す
僕射となり

二 正月十二日皇女と皇孫あり
三月杜如晦死す七月勅し
秋大古の御田歟と遣唐
て常服の差と定む

三 有間ハ温泉漏出る九月十
正月僧尼を勅して父母汝
使す○十月十二日都と大和の
馬の傍に在す岡本宮

四 有御田歟唐ハ高表仁
四月張公謹死す

五 有廿六日高表仁唐より入る
六月 渾天儀を造る○有
笑ゆきて法ともとの寒山拾得夫台山に隱る

六	正月朔後の小角じまろの三甲午吐番使遣して貢まぐ八 月豊浦寺よりひる八月長髪ありつる時の人禁野といふ と生ずる連あり	未	五月大上皇崩御す壽七十一九 十月秋陵よりうろ
七	七月劔池より乃基より一報 と生ずる連あり	未	十月秋陵よりうろ
八	五月霖雨大水の六月倒本の酉 宮焼亡と帝田中七官よ りりま	酉	六月温彦傳と若僕射より一十 魏徴と特進より秋書より つて告評と禁しむ
九	二月大星東より西に流るる 雷なり。これ蘇我の蝦夷が隠謀の相なり	酉	五月温彦傳死す
十	七月十九日大凡家と破る九月 桃李花の十月有間は行幸	戌	五月慶徳内死す馬周を十二 中春舎人より
十一	正月八日帝都より遷幸の皇 二月大凡雨廿五日慧聖いづ	亥	正月房玄齡より太子の少 師と化の玉珪死す

十二	二月七日星加仲よ入惠隱 と内裡に徴て無量壽経と 講せし禁中にて経と講 じりし是よりと	庚	孔穎達を命て諸儒と五經の古 正史と撰しむ花嚴宗の 祖杜順和尚寂す
十三	十月九日帝崩御す	辛	四月陰陽の難を判定し 九月魏徴と太子の師と
元	此 皇極 母の吉備姫といふ先帝の弟なり先帝崩御すより正月 十五日位より即ち位に在り昇平都と大和の長島より 蓋の宮といふ蘇我の蝦夷と大臣とすの六月大上皇す と新て駿なり八月朔南河川より幸あり親四方と拜し 大上皇崩御す正月の十月十二月屢雷鳴夫春のより 二月廿日先帝と濟公の岡より	壬	寅 九月魏徴と太子の師と

新代記 卷之五 廿

二 正月朔五色の雲天より五色奈卯正月魏徵死す。切ある臣と古

月電光の天を徑一寸八月茨

陵煙閣の園を

男の池水盛れど一魚も死す。十月蘇我の蝦夷その子
入麻呂の王の班鳩の宮とせむ山背に玉自害と

三 七月富所辺の巫女祭る甲辰十月帝崩り高麗と伐十八

とと卿人勤て富をなす後誅せらる。十月入麻呂家と
麻呂の國に起双蝦夷が家と宮にといひ入麻呂家と谷の宮
門といひ男女と称して天子といふ

大化 北 孝徳 諱天万豊日身乙巳四月岑文本死す。玄奘法師十九

先帝比老なり位 師天竺より經像と来てくる
ま在り十年。六月十二日鎌足。禁中に入麻呂斬。巨勢乃
連蝦夷が余黨と誅す。同日孝徳帝。讓と受て位は即
ち始て年号とせむ。間人皇女と皇太后。中大兄皇太子

と太子より鎌足は錦の冠と賜りて内大臣より倉橋麻呂

石川磨と左右の大臣とに。九月十百廿人の皇子謀反して

誅せらる。十月都と難波の長柄よりい豊崎の宮より

勅して群臣朝拜の礼を行。西平瑜伽論と翻譯してなり廿
ハ諸國の司と立所と置傳驛とせむ。始て宇治橋と造

七色十三階の冠と削す。大十未 正月高士廉死す。玉花宮廿一
伴の皇子ひまろ。十月有 乙作ろ。冬。龜慈國と云

四 天王寺に靈鷲鳥山の像と甞 正月帝が範と作て太子廿
造ろ。永法の僧と三韓使と 太子の房玄齡死す。蝦夷
心経と翻譯と

五 二月冠十九階と削す。八雀 巳酉 五月李靖死す。帝崩す廿三
百官と置。三月十七日倉橋 〇六月太子位ははく

曆死も石川曆の日向曆が諸奏よりして自害す後諸
言わく日向曆と築紫に流す。巨勢徳太律長徳を害す

二月長門の地戸より自害す
三 高宗 子カハ在位廿四年
二 帝豊崎の宮より川のりもの。冬鷹集。大馬とさく者。八罪す。四祖の道信寂す。

三月吉首より皇量壽経と季
七月丹皇后の為に慈恩寺と建す。陳毛意と太子と

四 吉吉の長丹等と唐の使と。癸丑九月北平公張行成死す。多武の峰の定惠元興寺の道昭去る。唐と

五 正月五日紫冠と鎌足は賜らる。甲寅三月武氏と奉て昭儀とす。四月洪水溺死する者三千余人

元 元 皇極帝再位す。乙卯 即ち都と板蓋の宮より。密本乃宮とす

月十日帝崩す。十二月八日大坂の磯長の陵より。吐火羅国の人舎衛国の人。難凡よめて日向の国より

二 百濟より鸚鵡とさく。○鎌 丙辰 二月武王頼司と贈り。是病の百濟の法明。維平経と誦て愈。藤原春衡遣唐使となり。父の輕大臣と成りて。輕大臣鬼界嶋にて死す。丹波宮傍村の輕野社に也

三 七月始に干蘭盆會と設く。丁巳 天竺の方士と国より。浴。○十月鎌足。山階寺とつる。繼十會より。トまる

四 正月十有巨勢徳死す。○智 戊午 尉遲敬徳死す。○李善文。通。智達入唐して。去。特。遷とさく。○褚遂良死す

通。智達入唐して。去。特。遷とさく。○褚遂良死す

通。智達入唐して。去。特。遷とさく。○褚遂良死す

わの智瑠相南車と作る○十月十五日紀伊の温湯幸○有
間乃皇子逆意あり生捕して自害と

五 正月三日帝温湯より入り己未七月長孫無忌柳葉を殺
○七月諸國の諸寺を勅して孟蘭盆経を講じ○今乃聖靈
會に他に出雲の神宮を修造せしむ

六 百濟より新羅唐の兵首濂甫
四月合璧宮を作る○七月蘇
と改王と虜をりしと奏す
定方と遣し百濟を伐し

七 五月神木を伐て都を在の卒酉
四月任雅捕と遣し高飛
朝倉山に造る神木の崇ま
と征
より内裡破損し歴死と都
七月廿二日帝崩
まは壽四十六同月越智乃大
間乃陵に葬る鬼見て葬と

元 九 天智
諱天命 庚辰の壬戌正月百官乃名とありし
身まゝ落中兄の皇子舒明帝の皇子也母ハ
先帝より位に在し十年○布三百端と百濟王豊璋と
賜の高麗より昭本に加勢とる○四月龍馬の尾を産
大和乃野寺と草創し○昭本
癸亥四月蓬萊宮成就す○大般
の兵首濂と殺て唐の兵義
若経と翻譯と

三 冠位廿六階と定し○蘇我の
甲子八月祥瑞道實徳を左の相
遷死す○六月近江栗太郡に一夜に稲は穂は生ず

四 二月廿五日間人の太石薨す乙丑
五月麟徳曆を行ふ

五 唐の沙門智由相南車と丙寅
老子を尊て大上玄元皇帝
○七月亮徳女死す

唐の沙門智由相南車と丙寅
老子を尊て大上玄元皇帝
○七月亮徳女死す

東山院 元應元年 始建三年

中御門 元應七年 市五年

根所院 元應八年 十二年

北園院 元應九年 十五年

仙洞院 元應十年 九年

後花園院 元應十一年 九年

今上 元應十二年 十七年

六 三月十九日都と近江の志賀より卯
九月季勳高兼とらひ〇二
律宗の祖道宣律師密す

七 正月三日帝即位〇二月廿三日戊辰
九月高兼王藏唐上降参す
倭姫の玉と皇后とす〇新
〇京師山東江准早して飢饉章

八 十月十三日鎌足は中臣と改め己巳十月季勳死す
二
藤原の姓と賜る十六日鎌足薨す〇同十九日内大臣乃
家幸わり金の香炉と賜り〇行基いまふ

九 四月法隆寺雷火と焼る摩十月勅して官名と相よる令
〇六月甲子字ある龜とさく〇始て水碓とせらる

十 正月五日大友の皇子と大臣大友未
大鑑禪師五祖の秘傳ふ
蘇我の赤兄と左大臣中臣の金連と若大臣とす〇三月

常陸より中臣部の子と貢長二尺六寸六分〇四月始て瀧
類と用ひ時の鐘鼓とつ〇十月大海人の尊古野の入り〇
十月三日帝崩す〇また壽甲十六歳〇天炊寮乃鼎との
けり鳴〇筑前より八足の康とさく又讃岐の四足の鶏あり

鳳白
四 天武
諱天武中在原瀧甫八月許敬宗死す
其真人幼名大海人の尊先帝乃稚なり位は
在し十五年〇五月高市乃皇子大津比皇子等大友は皇
孫と合戦大友益死す〇九月都と大和聖本の南よりす
伴御原代官とす〇中臣の金連と斬蘇我の赤兄と流す

二 二月廿七日帝即位高天原癸酉七月癸卯大水
廣野姫と皇后とす〇三月近江の坂本に大宮の社とあがむ
〇始て一切経と字す〇十月季勳乃道昭大僧都と位と
奥福寺の受戒僧都と任す〇十月五日大嘗會

年代記
卷之五
七

三 百濟の王昌成死す小紫 甲戌 孫思邈終南山に隠れて
位とありける三月對馬より始 千金方とありける

四 勅して占星臺と爲る○大略 乙亥 八月戴至德郡仁軌と左右
臣清磨勅して近江の矢橋 乃僕射とす○五祖弘忍寂す

五 正月十五日群臣御新とす 丙子 九月狄仁傑と侍御史と
又八幡宮と勸請と○吉野の舟生乃社とあがじ○胃竜田社
と廣瀬の社とあがじ○十月相模の三子と生○十月大地震

六 勅して神稅三分二と神事と 丁丑 高麗王藏と朝鮮王とす
ありける○十月五節舞姫とありける

七 八月三日八坂の塔つゝ○多武 戊寅 正月百官罷武太后朝と
乃奉て定息敏朝す○十月難波の取露あり○十二月築

紫大地震。地裂るるし廣と二丈長と三千余丈

八 六月米の大きき桃のごとく ○ 己卯 正月帝東都に幸
十月十三日僧尼の法服威儀と定む ○ 非由院施業院とあり

九 正月活田村よ桃李実りける ○ 庚辰 八月太子賢と彦哲と太子を
二月廿五日葛城と麟の角と傳り○六月八日少く○十月三日夜
東明して登れし ○ 皇后病あり業師と達し愈 ○ 禁裡の式と立

十 周防より赤き龜とさくぐ 辛巳 三月刘仁軌と太子少傅と
房前ひきり ○ 礼と改定め黒 壬午 法相宗の崩は慈恩と寂と

十一 漆の冠と著す ○ 六月十日雲あり ○ 八月五日幡ありける
庭中より三轉の樂と奏 癸未 法苑珠林の作者玄奘寂

十二 始て律師と任す ○ 銀 乙未 十月十二日帝崩す
錢とめて銅錢と用ゆ ○ 諸國の境と定む ○ 葬禮と始
て鼓とありける ○ 八月大旱。百濟の僧受覓雨と祈。即ち

年 七 五

九二

十三 丹波^{たに}郡^の十二^の角^のの^の禰^のあり^り○十月 用甲 才^ち 中宗^{ちゆうそう} 諱^{かた}八^の頭^の高宗^{かうそう}の^の 子^こなり三月 武^ぶ太^{たい}后^の 聖^{せい} 嗣^し

帝^{てい}と^と廢^{へい}一^{いつ}孫^{そん}玉^{ぎよく}且^{かつ}と^とつ^つ○● 睿^{ずい}宗^{そう} 文^{ぶん}明^{めい}元^{げん}○八月 高^{かう}宗^{そう}と^と乾^{けん}陵^{りやう} 子^こなり○九月 太^{たい}后^の 祚^そと^と纂^{さん}り^んと^と一^{いつ}朝^{あそ}は^は信^{のぶ}之^の年^{ねん}号^{ごう}と^と光^{こう}宅^{たく}丁^{てい}

十四 正月 爵^{しやく}位^い甲^か八^{はち}階^{かい}と^と改^{かい}定^{てい}○ 乙酉 太^{たい}后^の 垂^{すい}拱^{こう}元^{げん}○三月 太^{たい}后^の 帝^{てい}と^と 朝^{あそ}服^{ふく}と^と制^{せい}と^と○諸^{しよ}国^{こく}の^の位^いを^を 人^{ひと}の^の謀^{ぼう}役^{やく}と^との^の予^よす○法^{ほふ}藏^{ざう}白^{はく} 房^{ぼう}列^{りやう}と^とつ^つと^と○七^{しち}月^{げつ}僧^{そう}懷^{わい} 及^{及び}と^と自^じ馬^ば寺^じに^に生^{せい}と^とす

朱^{しゆ} 大^{たい}和^わと^とら^ら赤^{せき}雉^しと^とさ^さぐ^ぐ○五 丙戌 九^く月^{げつ}新^{しん}豊^{ほう}と^と山^{さん}と^とさ^さい^いげ^げり^り 鳥^う 月^{げつ}大^{たい}赦^{しゃ}○六^{ろく}月^{げつ}草^{そう}薙^ぢの^の劔^{けん}と^と 熱^{あつ}田^{でん}の^の社^{しゃ}に^にた^たさ^さひ^ひ○九^く月^{げつ}九^く日^{にち}帝^{てい}崩^{くわ}れ^れと^とす^す○大^{たい}津^つ内^{ない}皇^{かう}子^し 謀^{ぼう}又^{また}して^{して}こ^ころ^ろさ^さぐ^ぐ

大^{たい}和^わと^とら^ら赤^{せき}雉^しと^とさ^さぐ^ぐ○五 丙戌 九^く月^{げつ}新^{しん}豊^{ほう}と^と山^{さん}と^とさ^さい^いげ^げり^り 鳥^う 月^{げつ}大^{たい}赦^{しゃ}○六^{ろく}月^{げつ}草^{そう}薙^ぢの^の劔^{けん}と^と 熱^{あつ}田^{でん}の^の社^{しゃ}に^にた^たさ^さひ^ひ○九^く月^{げつ}九^く日^{にち}帝^{てい}崩^{くわ}れ^れと^とす^す○大^{たい}津^つ内^{ない}皇^{かう}子^し 謀^{ぼう}又^{また}して^{して}こ^ころ^ろさ^さぐ^ぐ

和^わ漢^{かん}年^{ねん}代^{だい}紀^き卷^{まき}之^の五^ご終^{しゆう}

